

唐・五代時代の江西関係禅宗年表

鈴木 哲 雄

- 580年 道信、蕪州広濟県(湖北)に生まる(『祖堂集』巻2、以下「祖」と略称。『景德伝灯録』巻3、以下「景」と略称)。
- 617 大業十三年(2月、義寧と改元)、道信、吉州にいたる(景3)。
- 605 617 道信、城東の祥符寺に住す。時に寇、城を囲むこと七十日。道信、城中に令して、屠を禁じ、仏を誦すると、神が城上にあらわれ、賊は懼れをなして退く(『江西通志』巻123、以下「通志」と略称)。
- 624 道信、蕪春破頭山に住す(景3)。
- 633 太宗、道信を召すも、上表して遜謝す(景3)。
- 643 湖北黄梅の四祖道信禅師、四たび徴さるるも立たず、珍繪を賜い、もってその道を旌す(仏祖統紀39)。
- 唐・五代時代の江西関係禅宗年表(鈴木)
- 651 閏9月4日、道信寂す、寿72歳(統高僧伝21、景3。但し祖2は永徽2庚戌八干支は650年に当たるとする)。
- 652 4月8日、道信の塔の戸、故なく自ら開く。生けるがごとし(祖2、景3)。
- 673 蒙山道明、大庾嶺にて慧能の衣鉢を磐石より挙げ得ず(『宋高僧伝』巻8、以下「宋」と略称)。
- 695 陽岐広敷、南燕(今の河南延津県)に生まる(宋20)。
- 707 馬祖道一、漢州什邡県に生まる(全唐文501)。宋高僧伝10によれば、709年生まれとなる。
- 709 廬陵県青原山に蘭若建つ(段成式の碑文によるとするが、碑文には疑がもたれている)(通志123)。
- 712 蒙山道明、六祖慧能の開発を得て本性を了悟し、廬山布水台に往き、住すること三年、袁州にゆく(廬山紀事)

4)。

717 楊岐乗広、容州に生まる（全唐文610、金石萃編105）。

731 7月15日、「東林寺碑」李邕撰并びに書。843年僧雲阜

立石（廬山記1）。

紫玉道通、廬江（安徽）に生まる（宋10、景6）。

735 西堂智蔵、虔化に生まる（宋10付見、景7）。

740 12月13日、青原行思寂す（宋9、祖3、景5）。坐亡

す。僖宗朝（873—888）に弘濟禪師帰真之塔と追諡す（仏

祖統紀40）。

719—741 馬祖道一、衡嶽伝法院にて南嶽懷讓に学ぶ（景

6）。祖堂集6では「住世四十余年」という。788年寂で

あるから、衡嶽を離れるのは開元末天宝初であろう。因

みに南嶽の寂年は744年である。

広利寺は萍郷県北宣化里楊岐山下にあり、広利禪師が

創建（通志122）。

新建県崇梵坊の大仏寺を開元寺と改む（通志121）。

742 紫玉道通、泉州安南（福建）に出家す（宋10）。

△記年不明——馬祖、建陽仏迹巖に居す。紫玉道通、

往きて謁す（宋10、景6）▽。

西堂智蔵、仏迹巖に往いて大寂に参礼す（景7）。

744—745 廬山法蔵、南康に生まる（宋20）。

746 鷲湖大義、浙江衢州須江に生まる（全唐文715）。祖堂

集15、伝灯録7によれば745年生まれ。

楊岐乗広、受具、30歳（全唐文610、金石萃編105）。

749 百丈懷海、福州長楽（福建）に生まる（全唐文446）。

宋高僧伝10、伝灯録6によれば720年生まれ。

751 青原山の蘭若を浄居寺とする（段成式の碑文によると

するが、碑文には疑がもたれている）（通志123）。

755 興善惟寛、浙江衢州信安（||西安）に生まる（全唐文

678、宋10、景7）。

742—755 廬陵県瑞慶山に靈巖寺建つ（通志123）。

758 百丈懷海、衡山法朝律師について受具（全唐文446）。

760 西堂智蔵、具戒す（宋10、景7）。

765 鷲湖大義、具戒す（全唐文715）。

767 10月、顔真卿、吉州浄居寺（||静居寺）に遊び、「靖

居寺題名」を記す（通志123、宝刻類編2）。

宏忍（弘忍）、大満和尚と諡され、塔を法雨と号す（太

平寰宇記127）。

興善惟寛、出家す（全唐文678、宋10、景7）。

768 顔真卿、吉州より撫州に移る（通志123）。

774 道信、大医和尚と諡され、塔を慈雲と号す（太平寰宇記127）。祖堂集2は766～779年とし、伝灯録3は762～779年とする。

△記年不明——775年ごろ、楊岐甄叔、袁州楊岐山に入る。「宴坐四十余年」と（全唐文919、金石萃編108、宋10）▽。

777 8月、楊綰・常袞、湖州刺史顔真卿を薦む。上、即日召還す（資治通鑑225）。大暦元年（766）、真卿は元載を攻め峡州別駕に貶され、ついで改めて吉州司馬となり、撫湖二州刺史に遷る（同注）。但し、実際には峡州に行っておらず、行く前に吉州司馬に改められた。

778 興善惟寛、受具す（全唐文678）。

766～779 婦宗智常、江西道一より得法（廬山記3）。

鷺湖大義、上饒郡西百里、鷺湖山に住す（全唐文715）。

僧大義、錫を山中の双鷺に卓て、また山の麓にかえり、仁寿院を建つ。後に鷺湖寺と名づく（通志51）。

馬祖道一、洪州開元寺に住す（宋10、景6）。新建県崇梵坊の開元寺に、馬祖が道場を建つ（通志121）。

六祖の弟子法登禪師（一登）、竜須山に隠る（吉安府志8）。

唐・五代時代の江西関係禪宗年表（鈴木）

△記年不明——陳田玄寂、洪州開元寺に西堂智蔵を礼す（祖17）▽。

780 信州南巖草衣禪師、宴坐すること三十年、侍郎権徳輿、この記をつくる（仏祖統紀41）。

783 3月、江西節度使曹王臯、李希烈を敗り、蘄州を抜く。伊慎を表して蘄州刺史となし、王鏐を江州刺史となす（資治通鑑228。以下通鑑と略称）。

785 3月4日、楊岐広敷寂す、寿91（宋20）。

礼部侍郎劉太真、上饒郡をつかさどり、鷺湖大義に、鷺湖山下に住することを請う（全唐文715）。

786 4月庚辰、馬祖道一、石門山に寂す、寿80、臘60（全唐文501）。宋高僧伝10、祖堂集14、伝灯録6は788年2月。祖堂集は1日、伝灯録は4日寂すとし、宋高僧伝は臘50とする。

紫玉道通、南嶽に往き石頭に見ゆ（宋10）。

参考、雲巖曇晟、義寧州治三百歩に茅を結び、宗風振い、ついに雲巖禪院を建つ（通志121）。

788 2月初、馬祖帰化せんとするに際し、紫玉道通に「それ玉石潤いて山秀ずれば、汝が道業を利益せん。遇わばこれに居るべし、と。」（宋10、景6）。

- 秋、紫玉道通、伏牛自在と洛陽に遊び、廻りて唐州紫玉山（河南）に至り住す（宋10、景6）。
- 馬祖を靖安県北四十里大梓都石門山泐潭寺（850年、宝峯寺）に蔵塔す（通志121）。
- 790 興善惟寛、閩越の間を行化す（全唐文678、宋10、景7）。
- 791 西堂智蔵、開堂す（景7）。
- 権徳興、「唐故洪州開元寺石門道一禪師塔銘并序」を撰す（全唐文501）。
- 792 興善惟寛、鄱陽に至り、山神に八戒を授け（景7）、廻向道場を作る（全唐文678、宋10）。
- 793 福州大安、閩城（福建）に生まる（宋12）。
- 797 興善惟寛、非人を嵩山少林寺に感ぜしむ（全唐文678、宋10、景7）。
- 798 3月既望之又十日、楊岐乗広寂す（全唐文610、金石萃編105）、寿82、臘52（金石萃編考証）。
- 785 李渤、棲賢谷白鹿洞に隠れる（読史方輿紀要83）。
- 805 6月、宣歙巡官羊士諤を汀州寧化尉に貶す（通鑑236）。
- 806 楊岐乗広の塔、建つ（全唐文610、金石萃編105）。
- 僧韜光、贛江錢塘の天竺より贛県貢水東の天竺寺に、
- 白楽天の詩蹟を携えて来る（贛州府志16）。この事柄については疑問が持たれている。
- 807 5月27日「乘広禪師碑」劉禹錫撰并正書、劉申錫篆額（芸風堂金石文字目6）。「金石録」卷29に、転写の間に脱誤多し、という。「集古求真」卷5に、25行、行54字、萍郷県楊岐山にあり、江西の碑中、最もすぐれたものという。
- 6月21日、仰山慧寂、韶州（広東）に生まる（全唐文813）。
- 洞山良价、会稽諸暨県（浙江）に生まる（宋12、祖6、景15）。
- 807 驚湖大義禪師、入りて麟徳殿に見え、諸法師と議論す（仏祖統紀41）。
- 808 李吉甫同平章事を淮南節度使に充つ（通鑑237）。
- 810 憲宗、興善惟寛に、麟徳殿にて道を問う（全唐文678、宋10）。
- 権徳興を礼部尚書、同平章事となす（通鑑238）。
- 813 紫玉道通の弟子金蔵、百丈に参じ廻りて道通を礼す。金蔵に付嘱し、襄州に去る（宋10、景6）。
- 7月15日、紫玉道通、襄州に寂す、寿83（宋10、景6）。

814 正月17日、百丈懷海寂す、寿66、臘47（全唐文446）。

寿95（宋10、景6）。

4月8日、西堂智藏寂す、寿80、臘55（宋10付見、景7）。憲宗、大宣教師と諡し、塔を元和証真という（景7）。

4月22日、百丈懷海、全身を西峯に窆む（全唐文446）。

『紫玉山禪師碑』李承翟撰、屈師穆書（金石錄9、宝刻類編5）。

816 饒州大水、四千七百戸を漂失す（通鑑239）。

817 2月晦、興善惟寛、京兆に寂す、寿63、臘39。瀟陵の西原に帰葬す。大徹禪師と諡し、元和正真塔と号す（全唐文678、宋10、景7）。

4月8日、西堂智藏寂す。穆宗、大覺禪師と諡し、大宝光塔という（重建大宝光塔碑）。年に誤まりあるか、814年条を見よ。

白樂天、江州にあり、香爐峯下に草堂を築く（吳榮光編『歴代名人年譜』）。宋高僧伝17、帰宗智常条に、「白樂天、江州司馬に貶せられ、最も欽重を加う」と。司馬に貶せられたのは815年秋である。

818 正月7日、鷺湖大義、鷺湖寺に寂す、寿73、臘54（全

唐・五代時代の江西関係禪宗年表（鈴木）

唐文715）。慧覺禪師見性之塔（景）。伝灯録7は寿74とする。祖堂集15は正月2日、寿74とする。

10月13日、『百丈懷海禪師塔銘』陳翊撰、武翊黄書、洪州（宝刻類編5）。全唐文446の碑文の末には10月3日とする。十が脱字か。

820 正月13日、楊岐甄叔寂す（全唐文919、宋10）。金石萃編108は庚午歳とするが、全唐文の庚子が正しい。

806 楊岐甄坡（叔？）、広利禪師の塔を楊岐山広利寺に建つ（通志122）。

821 帰宗智常、廬山帰宗浄院に住す（宋17）。馬祖道一に大寂禪師と追贈し、塔を大莊嚴という（景6）。

821 円通縁徳、遊方し、襄州清谿（湖北）の洪進に参ず（禅林僧宝伝8）。

李渤は旌表を請い、穆宗、西堂智藏に大覺禪師と諡す（宋10付見）。

穆宗、百丈懷海に大智禪師と諡し、塔を大宝勝輪という（宋10、景6）。大宝勝（祖14）。

823 仰山慧寂、17歳。韶州南華寺通禪師について出家す（宋12、祖18、景11）。

7月11日、「唐鷲湖大義禅師碑」韋処厚撰、崔宏慶書、信州」（宝刻類編5、金石彙目分編6）。

824 6月、「大覚禅師塔銘」（西堂智蔵）李渤撰、柳公權正書、胡証篆額、贛州」（宝刻類編4）。

西堂智蔵に大覚禅師と諡す（重建大宝光塔碑）。年に誤まりがあるか。

820 824 穆宗、大覚禅師（西堂）のために塔を建つ。武宗の時廃す（通志16）。

825 4月、李紳、江州長史に移る（通鑑243）。

この年まで洞山良价、五洩靈黙に学ぶ（祖6）。但し五洩靈黙は818年寂であるから、この件は祖堂集の誤まり。

宝曆初、刺史李渤が棲賢寺を星子県五老峯下に移し、

帰宗智常を居らしむ（朱遵度「棲賢寺碑」全唐文893、廬山記2）。承天帰宗禅院に僧智常居す（廬山記3）。景德3年（1006）、承天と寺額を賜わる（余靖「廬山承天帰宗禅寺重修寺記」武溪集7）。

825 826 廬山法蔵寂す、寿82。その年の3月4日塔に入る（宋20）。

827 孝義性空、吉水県東山（崇義山）に來たり茅を結

び、太和中（827）835）叢席となる（孝義寺）（通志123）。

洞山良价、嵩山にて受戒、21歳（宋12、景15）。嵩山睿律師について受戒（余靖「筠州洞山普利禅院伝法記」武溪集9、以下「洞山伝法記」と略称）。

△記年不明——洞山、南源道明に侍すること二年（祖14、南源章）。

828 7月、「涅槃和尚碑」武翊黄撰、柳公權正書（金石錄9）。全唐文713「百丈山法正禅師碑銘」のことであるか。これは銘文のみでごく短かい。参考「法正禅師碑」は奉新県の大智院にある。元和十四年（819）（法正禅師）帰寂をもって、柳公権、これがために碑をつくる。歳久しくして多く残欠なり。今なお二三百字ありて読むべし」（輿地紀勝26）。

竜須山、後の法雲禅院を長興禅寺と改む。明年（829）また宣化と改む。970年妙峯と号す（吉安府志8）。

829 南昌県三都の仏頭塔寺、重修（南昌県志58）。舍利寺のことか。

830 仰山慧寂、受具す（全唐文813）。

832 4月30日、「楊岐山甄叔師塔銘碑陰」宝光等題名、行書」（続補寰宇訪碑録13）。

4月30日、『楊岐山甄叔大禪師碑』沙門至閑撰、僧元幽行書、王周古篆額（宝刻類編5及び8）。寶宇訪碑錄4に、30日と王周古篆額との記載がない。全唐文で至賢撰とするのは、至閑撰の誤まりであろう。金石萃編108、金石文跋尾8も至閑とする。但し跋尾は甄叔を乘広の弟子とし、元和庚寅（810）に寂すとする。跋尾は内容を正しく見ていない。金石二跋3に、劉夢得撰及正書、劉申錫篆額の「唐甄叔禪師銘并塔銘」（807年5月）のあったことをいうが、これは乘広禪師碑と混同した誤まりである。夢得とは禹錫の字である。平津読碑記は跋尾の庚寅、金石萃編の庚午を共に誤まりとする。芸風堂金石文字目6は宝刻類編の通りであり、年月日に干支を入れている。

834 九峯通玄（||普満）、鄂州長寿（湖北）に生まる（禪林僧宝伝7）。

827 ~ 835 廬山大林寺下寺創建（九江府志13）。

836 3月、袁州長史李德裕をもって滁州刺史となす（通鑑245）。

837 4月、中書舎人、翰林学士兼侍書柳公権、諫議大夫となる（通鑑245）。

唐・五代時代の江西関係禪宗年表（鈴木）

疎山光仁、廬陵新淦県に生まる（澄玉「疎山白雲禪院記」全唐文920）。

840 曹山本寂、泉州莆田県（福建）に生まる（祖8、景17、禪林僧宝伝1）。

南塔光涌、豊城県に生まる（全唐文870、禪林僧宝伝8）。

841 仰山慧寂、歳35、衆を領して出世す（祖18）。

842 裴休、鍾陵に廉たり、黄檗希運を黄檗山より竜興寺に迎えて、旦夕道を問う（伝心法要序）。

843 廬山東林寺を廃す（廬山記1）。

845 5月、祠部奏す、天下の寺を括るに四千六百、蘭若四万、僧尼二十六万五百（通鑑248）。

8月、詔して釈教の弊を陳べ、中外に宣告す（同）。

洞山良价、武宗の詔に遇い、遂に民服にて箕州（山西遼県）に隠る（洞山伝法記）。

841 ~ 846 （瑞州府城南大仰山下）棲隱寺と賜う（宋に太平興国寺という）（通志122）。

青原行思の塔、会昌中の堙毀に従う（宋9）。青原山浄居寺、廃す（通志123）。

棲賢寺を廃す（廬山記2）。

- 847 閏月、会昌五年に於じて廃する所の寺で、僧がよく管理していたものは、そこに住することを許す（通鑑248）。洞山良价、宣皇の御宇に及んで、すなわち復僧す（洞山伝法記）。
- 雲蓋懷益、福州閩県（福建）に生まる（全唐文869）。
- 848 裴休、宛陵（安徽宣城県）に廉たり、黄檗希運を開元寺に安居せしめ、且夕、法を受く（伝心法要序）。
- 849 廬山東林寺を復す（廬山記1）。仏祖統紀42は852年とする。
- 850 7月、宣宗、江南觀察使裴休に勅して、重ねて馬祖の塔并びに寺を建てしめ、額を宝峯と賜う（景6、全唐文501）。
- 851 正月、兵部侍郎裴休、塩鉄転運使となり、劉晏の法の弊を改め、漕法十条を立つ（通鑑249）。
- 4月23日記「『重建清居寺碑』段成式撰、顔稷書并篆額。按是碑所書殊有楷法。」（宝刻類編6）。但し段成式の撰とされることについては他に批判もあり、疑われている。
- 852 青原山浄居寺、重建（通志123）。
南唐光涌、出家す（全唐文870）。
- 853 宣宗、詔して西堂智蔵の塔を重建せしがために、唐枝、碑銘を撰し、権徳輿、書丹す（通志16）。李渤の碑を重建したのである。唐枝の碑銘は864年である。贛州府志16を見よ。権徳輿の書丹というは誤まり。
- 855 黄檗希運寂す、断際禅師と諡す（仏祖統紀42）。847（860）年条参照。
- 856 6月、中書侍郎、同平章事裴休を、同平章事にて、宣武節度使に充つ（通鑑249）。
- 857 10月8日、裴休、『筠州黄檗山断際禅師伝心法要』に序す（伝心法要序）。
- 858 曹山本寂、福州福唐県靈石山（福建）に出家（祖8、景17、禅林僧宝伝1）。
- 韋宙を江西觀察使となす。毛鶴を討つ（通鑑249）。
- 859 洞山良价、新豊山にて大いに禅法を行なう（宋12、祖6、景15）。但し洞山伝法記によれば、「（洞山に）留まり居ること十八年」とするから、852年（大中六年）洞山（『新豊洞』）に入ったことになる（石井修道「洞山と洞山良价」参照）。
- 847（860）黄檗希運寂す（宋20、景9）。黄檗山に寂す、断際禅師と諡し、塔を広業という（景9）。

洞山普利禪寺は新昌縣三十都にあり、僧良价が募つて、雷衝の地に広福寺を建つ。後に更めて功德禪寺と名づけ、また崇先隆報禪寺と名を改む(通志122)。

五峯寺はもと静覚と名づけ、新昌縣三十九都にあり。大中間改めて普利という。柳公権、額を書す(瑞州府志3)。浄覚院は新昌縣西北百十里の広賢郷にあり、額は柳公権の書なり(輿地紀勝27)。

新建縣の開元寺、大中間に燬る(後に南平王鍾伝が建て上藍院とし、令超を住せしむ)(通志121)。

△記年不明——南平王鍾伝(—906)、宜春縣南四十里に蟠竜院を建つ(通志122)。

864 郡守唐枝、贛縣宝華寺に西堂智藏の塔を重修(通志125)。

8月8日、「龔公山西堂勅諡大覚禪師重建大宝光塔碑銘」の塔建つ(贛州府志16)。

曹山本寂、受戒す(祖8、景17、禪林僧宝伝1)。

△記年不明——福州大安、福州閩縣(福建)の怡山(—後の長慶禪苑)に入る(祖17、景9)。

866 雲蓋懷溢、立磨山普資院杜禪師について出家(全唐文869)。

唐・五代時代の江西關係禪宗年表(鈴木)

868 南塔光涌、19歳。襄州寿山寺戴公のもとで受戒(全唐文870)。僧臘70というから、それによれば869年になる。

869 3月8日、洞山良价寂す、寿63、臘42(宋12、景15)。臘41(祖6)。

870 疎山光仁、洞山を去り、大滄山に行く(「疎山白雲禪院記」全唐文920)。

872? 雲居道膺、三峯に住す(膺、出世して人を度すること三十年に満了す)(宋12)。

873 福州大安、延聖大師と賜う(宋12)。

860-873 知宗大師慧寂、韶州東平山(広東)に僧儀を恢復す(余靖「韶州重建東平山正覚寺記」武溪集7)。

874 2月8日「重建大宝光塔碑」僧覚顯書、唐枝文、浙江海寧(補寰宇訪碑録3)。浙江海寧にありとするは模刻か。集古求真5に、僧覚顯書、唐枝撰文、二十行行四十字、云云。唐枝撰文、咸通十五年二月八日建、元豊二年七月十五日住持沙門覚顯重立并書。云云とする。輿地碑記目2に、「大覚禪師塔銘」は贛縣東北百二十里にあり、長慶四年(824)建ち、李渤が銘をつくり、柳公権が書したとし、また郡守唐枝の銘と大寂師の塔銘もまた権徳輿の筆である、といっている。金石彙目分編6にはそれ

唐・五代時代の江西関係禅宗年表（鈴木）

をそのまま載せ、別に「唐宝華寺大宝光塔碑」も載せている。この大宝光塔碑は唐枝の撰文を指す。即ちそれが874年2月8日のものである。そして覚顛が唐枝の撰文を書して再び建てたので、重建というのである。唐枝の撰文を権徳輿が書したというのは誤まりである。というのは、権徳輿は759〜818の人であるからである。また補寰宇訪碑録3という碑は覚顛の書であるから、元豊二年(1079)のものである。訪碑録が混乱している。西堂の碑は李渤のもの、唐枝のもの、共に何回も処々で建てられているように、採集の中で各種の混乱がみられる。

875 韶州東平山（広東）の仰山慧寂の住寺を弘祖禅林と名づけ、澄虚大師と賜わる（武溪集7）。

878 曾元裕、王仙芝を黄梅に破り、斬る（通鑑253）。3月、王仙芝の余党王重隠、洪州を陥す。江西觀察使高湘、湖口にはしる。黄巢、兵を引いて江を渡り、虔、吉、饒、信州等を陥す（同）。

880 4月、張璘、黄巢を饒州に攻め、これに克ち、黄巢、走る。

5月、黄巢、信州に屯す。高駢、張璘に令して撃たしむ。璘、死す。巢勢また振う（同）。

疎山光仁、廬陵巖田山を開く（疎山白雲禅院記）。

881 九峯通玄（普満）、洞山の塔の旁に廬すること三年、中和初、塔を辞して北遊す（禅林僧宝伝7）。洞山の寂年は869であるから、廬すること三年とは、喪に服する意味での修辭上の言葉であろう。

882 5月、鍾伝、撫州刺史となる（通鑑255）。7月、鍾伝、江西觀察使となる（同）。危全諷、撫州により、その弟仔倡は信州による（同）。

鎮南節度使鍾伝、湖北中山より道全を洞山に召す（洞山伝法記）。

清化全怱、呉郡崑山に生まる（宋13、景12）。

883 2月13日、仰山慧寂寂す、寿77、臘54（全唐文813）。韶州東平山に寂す（祖18、景11）。元和二年（807）六月二十一日生まれとするから、世寿は78歳でなければならぬ。遺偈も「年、七十七歳に満つ」（景11）といっているから、満で77歳である。

10月22日、福州大安、福州黄檗寺に寂す（景9）。福州怡山院に寂す（宋12）。10月21日閩城に寂す（祖17）、寿91、臘67（宋12）。円智大師と賜わり、証真塔と号す（宋12、祖17、景9）。

疎山光仁、臨川巴山白雲禪院を開く（「疎山白雲禪院記」全唐文920）。

884 禾山無殷、連江（福建）に生まる（徐鉉『徐公文集』27）。

885 正月、秦宗權、租賦を光州刺史王緒に責む。緒、給するあたわず。宗權、怒りて撃つ。緒、おそれ、光・寿州の兵五千をあげ、江・洪・虔州を掠め、この月、汀漳二州を陥す。しかし守るあたわず（通鑑256）。

12月2日、南唐烈祖（李昇||徐知誥）、彭城（江蘇銅山県）に生まる。子供の時父母を失ない、濠州（安徽鳳陽県）開元寺に托さる（十国春秋15、以下「十」と略称）。

清涼文益、余杭（浙江）に生まる（宋13、景24、禅林僧宝伝4）。

881-885 金谿県西五十里に白雲寺が建つ。南唐に疎山と改める（通志123）。

建昌県鳳棲山の同安寺は丕禪師の建立（通志124）。

雲居寺は建昌県欧山にあり、世に太常博士顔雲が宅を捨てて寺となした、と伝えらる。中和間、額を竜昌と賜い、宋に改めて真如と賜わる（通志124）。

唐・五代時代の江西関係禅宗年表（鈴木）

886 大寧隱微、予章新淦に生まる（全唐文877、景23）。

887 高駢、弑さる（十1）。

873-888 僖宗、青原行思に弘濟禪師起真塔と諡す（景5）。

890 正月15日、上藍令超寂す。元真大師と諡す（祖8、景16）。

禾山無殷、七歳にて雪峯義存について出家（徐公文集27）。

烈祖の父、李榮卒す。性は謹厚、喜こんで浮屠に従い、遊んでは多く迹を精舎に晦ます（十国春秋15）。

891 3月10日、仰山慧寂に勅して、通智大師妙光之塔と号す（全唐文813）。智通大師妙光之塔（宋12、祖18、景11）。

清涼文益、新定智通院（浙江）に出家（宋13、景24、禅林僧宝伝4）。

892 6月、孫儒死す（十1）。

8月、楊行密、淮南節度使となる（同）。

大寧隱微、予章新淦石頭院の道堅禪師について出家（景23）。

893 戴尚書、洞山道全を分寧県竜安院に迎う（洞山伝法記）。

宜黄県崇賢郷に唐濟寺（||黄山寺、如意寺）建つ（通

志123）。

894 7月、護国棲賢寺の額を賜う（廬山記2）。

洞山道全寂す（洞山伝法記）。

疎山白雲禅院の額を賜う（疎山白雲禅院記）。

895 3月1日、陸希声、「仰山通智大師塔銘」撰す（全唐

文813）。

楊行密、弘農郡王となる（十1）。吳太祖（楊行密）、

濠州を攻め、李昇を得、大将徐温の養子とせしめ、徐知

誥と名を改めさせる（同15）。

896 7月、鍾伝、吉州を攻む（十1）。

11月、棲賢懷祐の塔を伝灯塔と名づけ、玄悟大師と賜

わる（廬山記2）。

898 雲蓋懷溢、光化大師と賜わる（全唐文869）。

円通縁徳、杭州臨安（浙江）に生まる（禅林僧宝伝

8）。

894 898 黄竜晦機、雙峯庵（義寧州仁郷県黄竜山）に永安

寺を建つ（通志121）。

九峯崇福寺は上高県の西五十里の末麓にあり、唐の鍾

伝の故宅で、乾寧中、額を宏済と賜う。天福中（901）

904）今の額に改む（瑞州府志3）。禅林僧宝伝7で、南

平鍾王が九峯のために末山を買って精舎を建て、隆済と号せしめたという。これよりみれば、宏済寺は隆済寺のことである。

899 宜黄県仙桂郷の宝積寺は曹山で、もと荷玉観と名づけ

られ、光化二年（899）建つ。宋の祥符元年（1008）今の名に

改む（通志123）。

901 6月16日、曹山本寂寂す、寿62、臘37（祖8、景17、

禅林僧宝伝1）。

雲蓋懷溢、竜沙山に駐まる（全唐文869）。

廬陵県に資福寺を建つ。

902 正月3日、雲居道膺寂す（宋12、祖8、景17、禅林僧

宝伝6）。弘覚と諡す（仏祖統紀42）。

南平王鍾伝、雲蓋山に竜寿院を建て、雲蓋懷溢を任せ

しむ（全唐文869）。

903 禾山無殷、開元寺に受具、再び雪峯に参ず（徐公文集

27）。

清化全怱、受戒す（宋13、景12）。

904 南昌帥南平王鍾伝、南塔光涌を迎える（禅林僧宝伝

8）。

青林師虔寂す（洞山伝法記）。

888) 904 廬陵安平鄉童須山麓に、勅して資国院を建つ。

901) 904 白水本仁、筠州高安白水院に住す(宋13付見、祖8、景17)。

鎮南軍節度使鍾伝、光化の僧懷溢のために童寿禅院を新建県西北四十里雲蓋山に立つ(通志121)。902年条を見よ。

905 11月、呉太祖(楊行密)薨ず、54歳(十1)。長子、渥(烈祖)立つ(同2)。

大寧隱微、開元寺智称律師について受具(景23)。

清涼文益、越州開元寺(浙江)に具足戒を受く(景24、禅林僧宝伝4)。但し宋高僧伝13によれば、906年となる。

906 4月、鎮南節度使潁川郡王鍾伝卒す(十2)。9月、留後となった鍾伝の子匡時を捕える(同)。烈祖、鎮南節度使を兼ねる(同)。

浄德智筠、河中府(山西永濟県)に生まる(景25)。

観音従頭、泉州莆田(福建)に生まる(景25)。

907 呉、梁が唐に代って改元して開平と称するを認めず、天祐の年号を用う(十2)。

904) 907 鄂帥温公、黄竜晦機を朝に表し、超慧大師と賜う(通志121)。

唐・五代時代の江西関係禅宗年表(鈴木)

嚴陽尊者善信、武寧明心寺に住す(輿地紀勝26)。

908 5月、張顥、徐温、党をやり、烈祖(渥)を寢室に殺す、23歳(十2)。太祖の次子隆演(高祖)立つ(同)。顥、温に殺さる(同)。

6月、危全諷、敗れ捕わる(同)。

疎山光仁寂す、寿73(疎山白雲禅院記)。

912 普浄常覚、帰宗寺(弘章)禅師を礼し、苦行を充たし、出家す(宋28)。

913 円通縁徳、臨安東山(浙江)の勤について剃髪(禅林僧宝伝8)。

普浄常覚、廬山東林寺甘露戒壇にて納戒(宋28)。

917 秋、南塔光涌、仰山棲隠寺に還える(全唐文870、禅林僧宝伝8)。

12月19日、『唐疎山院記』沙門証正撰、可珪正書并篆額(宝刻類編8)。金石彙目分編6に宝刻類編を引き、「芬、按ずるに『全唐文』に、疎山白雲禅院記、中岳沙門証玉撰、と」という。

浄徳冲煦、晋安(福建)に生まる(徐公文集30)。

918 6月、徐知訓、朱瑾に殺され、朱瑾も自殺す(十2)。

919 4月、隆演(高祖)呉国を立て、年号を武義とする

(十2)。中原、事多し。徐知誥、淮上に人をやり、幣を厚くして招き、爵禄を与う。北上の士人、風をききて至るに虚日なし(同15)。

920 5月、宣帝(高祖)薨す、歳24(十2)。睿帝(溥)立つ、太祖第四子(同3)。

鹿頭道延、洞山に至る(洞山伝法記)。

921 九峯道虔、予章開元寺に寂す。舍利を海昏石門に葬る。泐潭第一世。寺の西に塔し、円寂といい、大覚禅師と諡す(禅林僧宝伝5)。

(順義初)徐知誥、奉化軍(江州)節度使となる(十15)。

922 4月、「呉疎山和尚碑」沙門西敷撰、可珪正書并篆額(宝刻類編8、金石彙目分編6)。

洞山道延寂す、洪果大師と諡し、恵光之塔と賜う(洞山伝法記)。

907 廬山雙溪院国道者(田道者)寂す(宋30)。

925 12月26日午時、黄山月輪寂す、寿72、臘53(景16)。

明本は924年とする。

926 正月20日、黄山月輪の塔を院の西北隅に立つ(景16)。韓熙載、来り帰す(十3)。

921 大寧隱微、福州五嶺羅山道閑に学ぶ(全唐文877)。

927 10月、徐温(徐知誥の義父)卒す(十3)。

浄徳智筠、具戒す(景25)。

928 僧常真(田道者)、廬山雙溪院をつくる(廬山記1)。

907 923年条を見よ。955宋年条の碑はここをいうか。

929 雲居道斉、洪州に生まる(景26)。

930 帰宗道詮、吉州安福に生まる。

931 浄徳冲煦、鼓山神晏について出家(徐公文集30)。

徐知誥、鎮海(潤州)・寧国(宣州)諸軍節度使となり、金陵を鎮む(十15)。

応天寺を微賢寺と改む(十3)。

932 8月6日、陸元浩「仙居洞永安禅院記」題す(全唐文869)。

泐潭延茂、宝峯に住す(祖12)。

△記年不明——開元紹宗、庵を虔州了山に結ぶ。

933 江州刺史楊澈、仙居永安禅院(星子県北四十五里)の勝を親ら篆す(廬山記2)。

934 2月、金陵、大火(十3)。

8月28日、雲蓋懷溢、洪州雲蓋山竜寿院に寂す、寿88、臘67(全唐文869、金石萃編122、八瓊室金石補正81)。

11月、徐景運、報先院を金陵に建つ(十3)。

935 徐知誥、齊王となる(十15)。

936 7月27日、「偽吳雲蓋山竜寿院光化大師実録碑」欧陽熙撰、漆茂成正書并額(八瓊室金石補正81、金石彙目分編6)。

937 10月、徐誥(≡知誥を改名)、吳王より位を受け、国号を大齊とする(十15)。建康を西都、広陵を東都とする(同)。

清化全怱、越州(浙江)雲峯山清化院に住す(宋13、景12)。

938 夏、南塔光涌寂す、寿89、臘70(全唐文870、禪林僧宝伝8)。塔を仰山の西南隅に立つ(全唐文)。

11月、吳、睿帝(溥)殂す、歳28(十3)。吳及び陽の字を諱み、人名・地名・建造物の名を改める(十15)。

939 2月、国号を大唐とし、徐誥(李昇、烈祖)、李姓に復す(十15)。

940 8月、景通(通、元宗。烈祖の長子)太子となる(十16)。

白鹿洞に学館(白鹿書院)をつくり、李善道を洞主となし、その教を廬山国学という(十15)。読史方輿紀要

唐・五代時代の江西関係禅宗年表(鈴木)

83は937と942とする。

941 婦宗慧誠、揚州(江蘇)に生まる(景26)。

943 3月、金丹を服して死を早め、李昇殂す、56歳。烈祖と号す(十15)。元宗璟(景通)即位(十16)。

10月3日、清涼休復、昇州(江蘇)清涼院に寂す(景24)。

△記年不明——李中主景(元宗)即位するに及んで、廬山南麓の書堂を寺となし、開元寺と名づく(廬山記2、黄庭堅「開先禅院修造記」、南康府志7)∨。但し951年とみられる。同年条を見よ。

944 3月11日、「通智大師碑」崔行潜撰、陳覺重書、陳元光篆額、10月1日立表(宝刻類編7)。

4月9日、「通智大師塔銘」陸希声撰、陳覺重書、陳元光篆額、10月1日立表(宝刻類編7)。

10月1日、「光誦長老碑」(≡南塔光涌?)朱齐邱撰、陳覺重行書、臧循篆額(宝刻類編7)。

甲辰歳(944?)、江南国主、清涼大道場を創め、清涼休復を延請して居らしむ(景24)。但し清涼休復は943年に寂している。

945 正月、「南唐四祖塔院疏」(湖北金石志7)。

2月、查文徽、閩兵を赤嶺に敗る（十16）。

8月、閩主王延政を執え、金陵に帰る（十16）。

9月、許文積は汀州（福建）、王繼勳は泉州、王繼成は漳州をもって、来り降る（十16）。

946 正月、中書侍郎馮延巳、同平章事となる（十16）。

南唐清泉禅師（||清泉守清）が章江院におり、保大四年（946）順化する。「竜沙章江院碑」立つ。韓熙載碑文を作る（輿地碑記目2、輿地紀勝26、金石彙目分編6）。

947 7月、清化全怙、越州雲峯山清化院（越州）に寂す、寿66、臘45（宋13、景12）。山の北塢に葬る（宋13）。

8月、太伝兼中書令宋齐邱を罷して鎮南軍節度となす（十16）。

知制誥徐鉉、史館修撰韓熙載は、宋齐邱、馮延巳の朋党を論ず。帝、延巳を罷して太子少傅となし、魏岑を太子洗馬に貶す。宋齐邱は韓熙載の酒を嗜むを諍り、和州司士参軍に貶す（十16）。

948 正月、太子少傅馮延巳を昭武軍節度使となす（十16）。

洞山敏寂す（洞山伝法記）。

949 帰宗道詮、受具す（景24）。

この歳、泉州を清源軍となし、留從效を節度使となす

（十16）。

950 清平惟曠、詔によって京（||金陵）に赴き、竜光に住し、寂照禅師と賜う（祖12）。

齐王景達、長慶寺を改めて奉先といい、もって烈祖の冥福を資す（十16）。

943 澄源禅師無殷、西山（||南昌山、厭原山）に住す（通志50）。

951 7月25日、「清涼寺悟空禅師碑」韓熙載撰并八分書及篆額、昇州（宝刻類編7）。江寧金石記の待訪目1にも、復斎碑録に見える、として載せる。

泐潭匡悟、辛亥の歳、泐潭に住す（祖12）。第四世（景17）。

禾山無殷、勅して洪州護国寺を賜い、澄源禅師と号す（祖12）。

詔して、大寧隱微を鳳闕（||金陵）に帰らしめ、命じて竜光梵刹に住せしむ。覚寂禅師と賜う。（五代史記注62下之上「上都右街竜光禅院故玄寂禅師塔銘」、八瓊室金石補正81、全唐文877、景23）。

廬山開先寺建つ（「皇上即位之九年、詔以廬山書堂旧基為寺」）（馮延巳「開先寺記」廬山記事4）。

951? 江南国主李氏、(開先) 寺を建て、開先紹宗を請して法輪を転ぜしむ(景21)。

荷玉光慧、玄悟禪師と賜う(祖12)。

南源(光睦)行修、慧観禪師と賜う(祖12)。

952 正月、筠州を高安県に置き、清江・万載・上高の三県をもって隸せしむ(十16)。

3月、馮延巳を左僕射となす(同)。

953 3月、金陵の大火、月をこえ、廬舎營署の殆どをやきつくす(十16)。

10月、楚州に白水塘を築き、灌漑せんとす。力役と民の田を奪って屯田としたことのため、江淮は騒然となる。徐鉉をして利害を視察せしめたが、徐鉉は奪った田を民に還させた。徐鉉はそしりを受け、貶される。白水塘成らず(十16)。

954 正月、馮延巳「開先寺記」立石(廬山記事4)。

帰宗道詮、年二十五にして友と結び、遠来参尋す(景24)。このころ潭州(湖南)延寿寺慧輪に参ずるか。

955 徐鉉「南唐雙溪院碑」(集古録目10、輿地碑記目2は安慶府(舒州)条)。

956 帰宗慧誠、撫州明水院にて受具す(景26)。

唐・五代時代の江西関係禅宗年表(鈴木)

△記年不明——金陵電光禅苑を奉先禅苑と改む(全唐文877「元寂禅師碑」参照)▽。

943~957 澄源禅師無殷、新建県西翠巖寺に住す(通志50)。

乾和の時、上饒県仁寿郷霧林山の康国寺で、耀禅師、説法す(広州府志2)。

958 5月、唐主、周の諱を避け、名を景と更め、帝号を去る(十16)。

7月17日、清涼文益寂す(宋13、景24、禅林僧宝伝4)。後主碑をつくり、韓熙載塔銘を撰す(宋13)。仏祖統紀42は957年7月とする。

923~958 南唐元宗の時、僧行因、仏手巖に居り、三十年間住し、『華嚴別論』十巻を制す、寿70余(景23)。

959 正月、宋齐邱、幽死す(十16)。

11月、洪州を建て、南都南昌府となす(十16)。

960 3月2日、禾山無殷寂す、法性禅師妙相の塔という(徐公文集27、景17、禅林僧宝伝5)、寿77(徐公文集)。

寿70、臘50(禅林僧宝伝)。

961 6月、元宗、殂す、歳46(十16)。

7月、後主即位、名は煜、元宗第六子(十17)。

大寧隱微、金陵奉先禅苑より、江南の李氏に随い、洪

唐・五代時代の江西関係禅宗年表（鈴木）

- 州大寧院に移る（全唐文877、景23）。王が南都に遷るのは二月（16）。
- 10月27日、大寧隱微寂す、寿76、臘56。玄寂禅師と諡し、塔を常寂という（全唐文877、景23）。
- 清化全怱の塔銘を彙征がつくり、立つ（宋13）。
- 後主即位し恩旨して、浄徳冲煦に法智禅師号を特賜す（徐公文集30）。
- 962 2月6日、大寧隱微を吉州吉水県仁寿郷太平里に帰葬す（全唐文877）。
- 3月、宋清源節度使中書令晋江王留從效薨す（17）。
- 963 帰宗道詮、廬山南牛首峯下に茆を結ぶ（景24）。
- △記年不明——雲居道斉、高安大愚東禅院に住す（景26）▽。
- 964 国主、報慈文遂を延いて長慶に住せしむ（景25）。
- △記年不明——帰宗道詮、潭州延寿寺（湖南）を去り、廬山開先寺に住す▽。
- 965 江南国主、北苑に大道場を建て、浄徳道場という。浄徳智筠を請し、達観禅師と号す（景25）。
- 韓熙載卒す（五代史記注62下之上）。
- 968 観音円通道場を置き、円通縁徳を居らしむ（廬山記1）。
- 969 5月、「元寂禅師塔碑」（大寧隱微）韓熙載撰、張藻正書、吉州（寰宇訪碑録5、金石文跋尾11）。
- 浄徳智筠、五峯棲玄（二棲賢）蘭若に寂す、寿64、臘44（景25）。
- 970 春、境内に命じて、仏寺を崇修す。また宝公院を開善道場となす（17）。馬令『南唐書』に、建康城中に僧徠り、数千におよび、米縉帛を給稟す（同）。
- 972 洪帥林仁肇、帰宗道詮を筠陽九峯隆濟院に住せしむ（景24）。
- 974 6月24日、清涼泰欽、清涼大道場に寂す（景25）。
- 975 2月、宋師、金陵を抜く（17）。
- 3月、呉越兵、常州を攻む（同）。
- 6月19日、浄徳冲煦、浄徳内寺に寂す、寿59、慧悟大禅師（徐公文集30）。
- 6月25日、浄徳冲煦、鍾山の陽に収骨（徐公文集30）。
- 宝刻類編7に「慧悟禅師真讚」湯悦作、篆書、南康をあげ、輿地碑記目2に「慧悟禅師冲照写真讚」西華湯悦撰」といひ、金石彙目分編6に「南唐慧悟禅師真讚」として、宝刻類編と輿地碑記目を載せる。冲照とは

沖煦のことである。

968 報恩法安、金陵報恩院に寂す（景25）。

977 10月7日、円通縁徳、廬山石耳峯下円通院に寂す、寿

80、臘63。道濟禪師と諡す（禪林僧宝伝8）。但し宋高

僧伝13は開宝中（968～975）寂とする。宝刻類編7に「円

通大師碑』裴廷撰、張文祐捨手書、江州」と載せる。

11月、江南主煜、宋に下る（十17）。

東林寺に太平興國寺と名を賜わる（廬山記1）。

978 7月、後主煜薨ず、歳42（十17）。

979 婦宗策真、金陵報恩道場に寂す（景25）。

983 9月、觀音從頭、洪州觀音院に寂す、寿78（景25）。

984 南康知軍張南金、婦宗道詮を婦宗寺に住せしむ（景24）。

985 11月28日、婦宗道詮寂す、寿56、臘37（景24）。

989 赤脚道者に詔す。入りて見ゆ（仏祖統紀43）。

991 大智道常、百丈大智院に寂す（景25）。

992 崇寿契稠寂す（景25）。

993 4月、婦宗義柔寂す（景26、婦宗慧誠条）。

994 婦宗義柔、婦宗寺に住す（景26）。

997 9月8日、雲居道齊、雲居山に寂す、寿69、臘48（景

26、禪林僧宝伝7）。

1007 3月18日、婦宗慧誠、婦宗寺に寂す、寿67、臘52（景26）。

唐・五代時代の江西関係禪宗年表（鈴木）